

長崎の林業

小曾根星堂書



五島奈留島 椿ストラップ

8

目次

● 林政だより	安全装備品への助成をはじめました！	2～3
● 特集記事	サンエスファーム 長橋 世紀さん	4～5
● 林業普及だより	森と地域を元気に！「木の駅たかき」	6
● 地方だより・島原	お休みの日は島原半島に行こう！	7
● 地方だより・五島	椿ストラップで奈留町を盛り上げろ！	8
● 林業団体情報	林業職員育成研修会	9
● センターだより	ヒノキバヤドリギの駆除に向けて	10
● 紹介コーナー	ながさき県民の森 森林館	11
● 炭焼き技術の伝承	茂平窯 笹野 孝行さん	12



2018
No.755

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！



この用紙は、日本の森林を育てるために
間伐材を積極的に使用しています。

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

安全装備品への助成をはじめました！ ～ 安全向上対策助成事業 ～

事業の趣旨

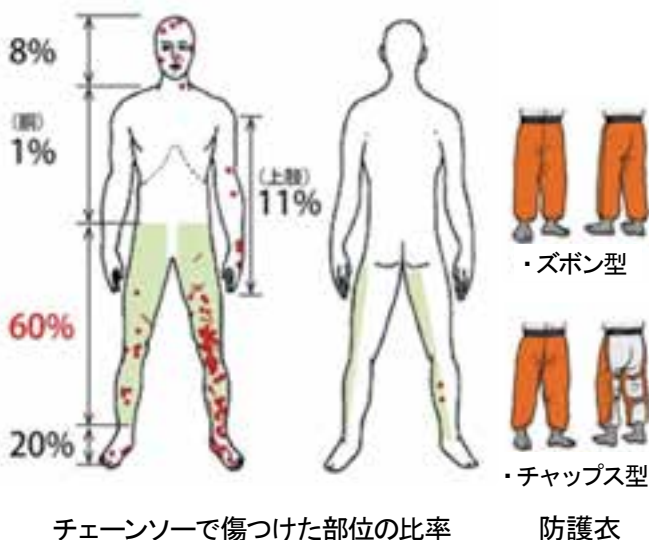
林業における産業別死傷年千人率は、32.9人（平成29年時点、全産業平均の約15倍）と著しく高い水準にあります。

また、林業従事者の高齢化率は他産業に比べて高く、林業従事者数も低迷するなど、林業従事者の確保のためにも労働安全性の向上は必須の課題となっています。

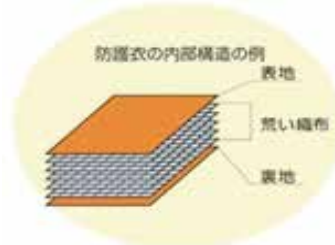
こうした環境を踏まえ、県では平成30年度から「安全向上対策助成事業」をはじめました。この事業では、労働者安全対策に取り組む「林業認定事業体」を対象に、一定の防護機能を有する安全装備品の購入費用について、県が一部助成を行うことにより、安全装備の普及率向上および労働災害発生率の低減等を通じた、林業の労働安全性向上を目指しています。

防護衣で災害を予防

チェーンソーによる作業中の切創事故が多く発生しており、特に「初心者」に多く見られます。被災の多くは脚部となっているため、防護衣の着用は林業・木材製造業労働災害防止規定に定められています。

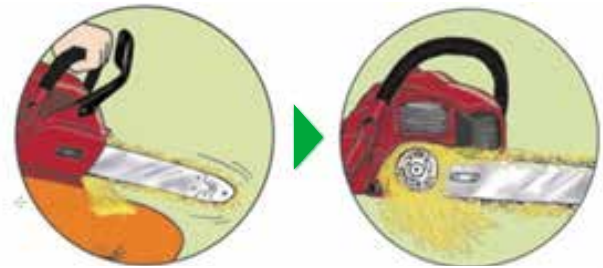


防護衣が体を護るしくみ



防護衣の内部構造は左の図のように、ゆるく編んだ生地が幾層にも重ねられています。

チェーンソーの刃があたると繊維の束が引き出され、駆動軸に巻き付き回転を止めて体が切れることを防ぐしくみになっています。



チェーンソーの刃に絡む 駆動軸に巻き付く

防護衣の選定基準

防護衣が、カッターを止める性能には規格が定められています。

- JIS T8125（日本工業規格）
- ISO 11393（国際標準化規格）
- EN 381-5（欧州規格）

上記の3規格はほぼ同一の試験方法によっています。試験は一定の速度で回転するカッターを当てて行われ、裏地を切らなければ合格です。カッターの速度によって、性能が以下の4段階定められています。

Class1 20m/秒	Class2 24m/秒
Class3 28m/秒	Class4 32m/秒

EN 381-5（欧州規格）の場合

防護衣（ズボン・チャップス）の選定基準は、欧州安全認証（EN381-5）のClass1以上です。

補助事業の概要

■事業名

ながさき森林づくり担い手対策事業
「安全向上対策助成事業」

■条件

下記をすべて満たすことが条件です。

- (1) 林業認定事業体（労確法第5条）。
- (2) 新たに林業に就業した雇用者で、かつ、常用雇用（雇用契約において雇用期間の定めがないか、4ヶ月以上の雇用期間が定められている者。）への支給品であること。
- (3) 他の補助事業（林野庁「緑の雇用」など）による補助を受けていないこと。
- (4) 一定の防護機能を有する安全装備品であること。

■補助率

1/2 以内

■補助金額の上限

5万円（1人当たり）

安全装備品のイメージ

チェーンソー作業にはさまざまな危険が伴います。

適切に着用された保護具が、万一の事故から作業者を守ります。

安全で適切な作業のために保護具を正しく着用しましょう。



チェーンソー作業の保護具

補助金額の算定方法（例）

県が交付する補助金額は、購入の補助対象経費「購入価格計（消費税相当額を除く）」に補助率を乗じた金額以内となります。

品名	金額	補助金	備考
ヘルメット	13,000	—	厚労省安全検定品
防護ズボン	25,000	—	EN381-5 Class1
安全ブーツ	16,000	—	EN381-5 Class3
計	54,000	27,000	
消費税相当	4,320	—	補助対象外
合計	58,320	27,000	

注意事項

- ① 対象経費の計が10万円を超える場合は、補助の上限金額の5万円が補助金額となります。
- ② 1件の予定価格（消費税及び地方消費税を含む）が3万円を超える場合、2社以上の代理店等から見積書を徴取して頂いています。

事業に関するご相談

この事業は、予算に限りがありますので、事業の採択については、先着順で審査を行います。また、ご購入いただく安全装備品について、全て皆様のご要望にお応えできない場合もございますので、予めご承知願います。

なお、事業の実施をご検討いただいている林業認定事業体の皆様には、事前に下記の担当部所まで、まずはご相談いただくことをお勧めします。

ぜひ、お気軽にお問合せください。

【お問合せ先】

長崎県 農林部 林政課 普及指導班

電話 095 - 895 - 2990

※防護衣の補助担当とお伝えください。

（林政課普及指導班）

【特集記事】



農事組合法人 サンエスファーム
長橋 世紀 理事長

今回は、南島原市北有馬町にある農事組合法人サンエスファーム 理事長 長橋世紀さんをお訪ねしました。

サンエスファームとは

平成22年3月創立のサンエスファームは、農薬などを使わない体に良い安全な菌床しいたけ(※)を生産・販売しています。サンエスファームのサンエスは、南のS、島原のS、しいたけのSの三つのSから名付けられたそうで地元への愛着が想像できます。

※菌床しいたけ・・・オガ屑に米ぬか、麦ぬか等の栄養源を混ぜた培地で栽培した椎茸

菌床しいたけへ生産の転換

長橋さんは、菌床しいたけ生産の草分けとして有名です。昭和40年代、市場で流通するしいたけは、ほとんどがクヌギやコナラの原木から収穫する原木しいたけでした。

長橋さんも昭和46年から62年まで原木しいたけ生産に従事しました。原木しいたけ生産の難点は、ほだ木の組み換えが大変で、

収穫量も季節と雨量に左右されて、安定的な生産が難しいことです。

一方、菌床しいたけ生産は、天候に左右されず、計画的生産が可能であること、重労働を必要とせず、通年就労が可能であることなど原木しいたけ生産にはない多くの利点があります。このような違いを総合的に考慮したうえで、昭和62年に菌床しいたけ生産に経営を変更しました。

菌床しいたけの生産量

年間の生産量は約500トンとのこと。長崎県下の菌床しいたけ生産量が約3300トンですから、県内の約15%のシェアを占めていることとなります。

工場内では、菌床しいたけから乾しいたけも製造されており、時代の変化を実感しました。



空調管理された菌床栽培

廃菌床のリサイクル

サンエスファームでは、毎日 8 m³の廃菌床が出てきます。廃菌床とは、収穫が終わった後の菌床のことで、この大量の廃菌床を燃やす過程で発生する温熱を暖房に利用し、工場全体の生産管理に見事なまでに活用されています。また、廃菌床の一部は再度菌床としてもリサイクルされます。すべてを再利用することで環境にやさしく、地域に喜ばれる菌床しいたけ生産は、地域との共生を可能にしています。

この廃菌床の燃焼を可能にする木質バイオマスボイラーは新たに開発されたもので、特許を取得しました。木質バイオマスボイラーや太陽光発電等、サンエスファームの循環型生産システムを見学する方は、年中あとを絶ちません。

雲仙岳噴火災害からの復興へ

島原半島では、普賢岳が突如噴火したため、住民の平和な暮らしが破壊されました。平成 2 年から 7 年のことです。住宅は土石流で押し流され、農地は降灰のために復旧の目途が立ちませんでした。

噴火の終息後、地域の雇用を創出し地域をなんとか再生したいとの強い思いから、最初のしいたけ生産組合であるがまだすし

しいたけ生産組合を設立（現在も生産中）しました。その後、サンエスファームを設立し、平成 30 年 7 月現在では、正社員が 41 名、派遣社員が 15 名と地域の雇用にも、大きく貢献しています。

6 次産業化への挑戦

生産した菌床しいたけの付加価値を高めるために、しいたけチップスなどの食品加工（2 次産業）や流通・販売（3 次産業）など攻めの戦略を 4 年前から取り組んでいるそうです。今後の長橋さんの取組にも注目が集まるところです。

また、工場見学（無料）や収穫体験もできます。普段なかなか見ることができないしいたけ作りの工程を見学することができ、新鮮なしいたけの見分け方やおいしい保存方法、調理方法を教えて下さるそうです。

（NPO 法人 地域循環研究所）



サンエスファームの工場

農事組合法人サンエスファーム

代 表	長橋世紀
住 所	南島原市北有馬町甲1414-8
T E L	0957 - 84 - 3846
e-mail	info@sanesufarm.com
見学受付時間	9:00 ~ 16:00
見学実施日	随時(電話にて事前予約制)
受入人数	1人から
休 業 日	無休(元旦のみ休)

林業普及だより

森と地域を元気に！「木の駅たかき」

～たかき・すてき・いきいきプロジェクト～

間伐材(未利用材)を地域通貨で買い取り、森林整備と地域経済の活性化を図ることを目的に、平成27年度から始まった県内唯一の「木の駅」プロジェクトが4年目を迎えましたので、それについて報告します。

取組みのきっかけ

このプロジェクトのきっかけは、「間伐後に放置されている木材をなんとかしたいですね。軽トラに山主が端材を積んで、木の駅に持って行き、それを地域振興券で買ってもらうのをテレビで見たんですが、諫早市でもできないでしょうか。」という市役所からの相談でした。

それに対し、「未利用材の活用による県民所得の向上」を林業普及活動のテーマに上げていましたので、市との連携プロジェクトとして取り組むことになりました。

知恵は皆で搾り出す

まず、「木の駅とはどういうものか」など、手探りによる市との勉強会からはじまりました。会を重ねる度に、木の駅は、先進地の事例から、地域の長となれる地域リーダーがいて、地域が纏まり、森林に対する関心が高い地域でないと成功しないという結論に達しました。そのため、これまで豊かな森林づくりに地域で取り組んでいる「高来町山林協議会」へ、プロジェクトの趣旨について説明会を開催しました。その説明会では、「森を元気にしてそのお金で地域の商店を元気にできるのはすばらしいことだが、日当にもならない、儲からない」など厳しい現実的な意見もありました。

しかし、「僅かなお金にしかありませんが、皆さんの勇気と行動が地元商店の活性化に繋がるんです。」という熱意と先進事例からの情報の共有化に努めました。さらに関係者で知恵を搾り出しながら、全員参加型で議論を深め、この地域でできることを一つ一つ整理していきました。

このことが実を結び、平成28年3月24日

に木の駅たかき実行委員会が設立され、同年8月11日には、「山の日記念イベント」として「木の駅たかきオープニングセレモニー」が、盛大に開催されました。その様子は、新聞・テレビで取り上げられ一躍、注目されるプロジェクトとなりました。



木の駅たかき 丸太搬入の様子【28.8.11】

これまでの実績・成果

その後、高来町山林協議会の積極的な活動により平成28年度には135t、平成29年度には262t(目標:100t)を生産し、この2年間で約2,100千円の地域振興券が発行され、30軒あまりの地元商店で流通しました。

また、平成30年度も生産目標をこれまでの倍増となる200tとするなど、高来町山林協議会の活躍は地域経済の新たな救世主として更なる飛躍が期待されています。

このプロジェクトがこのように軌道に乗っているのも高来町山林協議会の増山会長をはじめ、委員会に携わる各団体の代表者の連携と協力、相互理解によるものだと確信しています。

また、このプロジェクトだけでなく搬出間伐等によってその利益がこの地域へ還元されていることを耳にするたびに、微力ながら普及活動によって貢献できているのではと、喜びを感じているところです。

今後も各地域の様々な課題に対し、熱意を持って地域の皆様方との協働によって支援してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

(県央振興局 林業課)

地方だより

お休みの日は、島原半島に行こう!! (島原)



島原半島の雲仙国立公園の風景

暑いこの季節も過ぎ、少しだけ過ごしやすくなりました。皆さん、今年の暑い夏は、どう過ごされたでしょうか？お子様のいらっしゃる家庭では、夏休みにはいい思い出ができたのではないかと思います。

夏休みは終わりましたが、これからの秋に向け、島原半島で思い出作りができる場所をいくつかご紹介したいと思います。

まず始めにご紹介するのは、明治44年に日本発の県営雲仙公園が開設され、昭和9年、日本第一号の国立公園に指定された雲仙国立公園です。古くは明治より避暑地として多くの外国人が訪れており、知名度も抜群です！大正2年には日本初のゴルフ場も開設されており、緑豊かな雲仙ではすぐに紅葉が始まります。暑さが残るふもとを離れ、思い出作りはいかがでしょうか？

次に島原半島の南に位置する白砂青松の美しい海水浴場です。口之津町の白浜海水浴場と加津佐町の野田浜海水浴場、前浜海水浴場の3つの海水浴場は海水浴場百選や日本の白砂青松百選に選定され、全国的にも知られ

ています。

シーズンになると売店や海の家がオープンするので、時間を忘れて1日中海や森林浴を満喫できるのは当然ですが、人知れず喧騒を離れ、白砂を洗う波の音に浸れるのはこれからの季節です。

ご紹介した場所以外でも、自然を感じられること間違いなし。お休みの日は、島原半島へ行こう！！



島原半島にある白砂青松の海水浴場

(島原振興局 林務課)

樁ストラップで奈留町を盛り上げろ！ 三兄弟工房のご紹介（五島市奈留町）

木工品づくりへの歩み

葛島義信さん（長男）、広春さん（次男）、信広さん（三男）が主宰する、その名も「三兄弟工房」。大工仕事を行いながら、10年ほど前から木工グッズ等の製作を始めました。

木工グッズ製作の原点は、奈留町を盛り上げるため、アジの開きと出刃包丁をモチーフにしたストラップ「五島でばヒラキ」を五島市お土産コンテストに応募した結果、見事第2位を獲得したことから始まります。8年前には、レーザー加工機を導入し、オリジナリティ溢れる作品づくりを行っています。



左から長男の息子（勝幸さん）、三男（信広さん）
次男（広春さん）、長男（義信さん）

五島の樁に心を込めた作品づくり

材料は主に久賀島の樁材。長年の大工の目で、木の性質を見ながら木取りをします。特に、バターナイフなどは木のクセが出ないように必ず柂目を利用します。作品のアイデアは、兄弟で案を出し合ったり、お客さんや地域の方々の意見から生まれます。これまで、五島トライアスロンの入賞メダル、商工会と連携した双子水晶のペンダントなどの作品が生まれました。

また、昨年1月から勝幸さん（義信さんの息子）がメンバーに加わったことで、新しい作品も増えてきました。「地域みんなの協力

で作品ができ上がる。これからもみんなと連携した取組を行い、地域を元気にしたい」と三兄弟は口を揃えます。



双子水晶ペンダント



ICタグはぜひとも携帯で読み取ってみてください！



レーザー加工機を活用したコースター

世界遺産の決定とともに奈留町を元気にします！

工房では、作品づくりの体験もできます。昨年は1,000人/年の参加もあり、奈留町の活性化に寄与しています。また、江上天主堂が世界遺産に登録されたことで、今後、観光客も益々増えることが予想されます。三兄弟は今日も木工を通して奈留町を元気にしています。



（五島振興局 林務課）

林業団体情報

平成30年度 林業職員育成研修会（前期）開催

～ 林業職員21人も、みっちり受講 ～



はじめに

近年、長崎県林政に携わる林業職員の新規採用が継続しており、若手職員が即戦力で配置され業務に携わっています。しかし、林政業務は多様であるため、現場での実践だけでは広範囲な視野での業務遂行、柔軟な対応ができる職員の育成は難しいと考えています。

このため、本県林政の各業務を学び、受講生同士の情報交換も行いながら、基礎知識を習得してもらうために、長崎県治山林道協会では、平成30年7月23、24日に、新しくなった県庁舎で、長崎県と共催で林業職員育成研修会を開催しました。

新たに採用となった林務職員と林務の職について3年以内の市町の職員や林業団体職員を対象として開催し、併せて21人の研修生が参加しました。研修会では、森林、林業、木材産業の基礎知識、森林・林業の動向や課題、ながさき森林環境税、木材価格の推移、木材流通、治山・地すべり事業などについて2日間にわたり学び、質疑の時間も設け、日頃、疑問に思っていることを知る、いい機会となりました。

参加者の声

この研修会には、市町の職員も10人参加され、林務以外の職場から配属になった職員も多数いました。「林務には初めて携わるのでこういった研修があるのはありがたい。」という声も数多くいただいています。

講師として、県職員、治山林道協会職員が林政業務の説明を行いました。林政業務の基礎知識から、長崎県の林政の現状、林政に携わってきたの体験談など、今までの経験を踏まえながら、これから林政業務に従事する上で大切なことを教えていただきました。交流会では、職場を越えて受講者同士がお互いの心境を話し、親睦を深めました。2時間余りの短い時間でしたが、こういった機会の知己は今後の財産になると考えています。



(長崎県治山林道協会)

センターだより

ヒノキバヤドリギの駆除に向けて

ヒノキバヤドリギとは

長崎県は平成28年次にツバキ油の生産量が日本一の38.8kLとなりました。その主な生産地である五島列島では、最近、ヒノキバヤドリギによる被害が目立つようになってきました。

ヒノキバヤドリギは半寄生植物で、葉緑素を含む茎と水・栄養分の吸収根である吸器からなる特徴的な姿をしています（下写真）。

また、群生すると寄主を弱らせ、枯死させることもある等、ツバキに悪影響を与えています。これまで、その生態は詳しく調べられていませんでした。



ヒノキバヤドリギはどうやって増えるのか

ヒノキバヤドリギは8月頃から花が咲き、9月頃から実が熟し始めます。実が熟すと弾けるように種子が飛び出します。種子は糸状の粘着性の物質で包まれており、弾けとんだ種子が周りの植物に付着することで増えていきます。

10月にヒノキバヤドリギの種子をツバキの幹に人工的に付着させたところ、11月末には白い組織が形成され、翌4月には寄生するための吸器が形成されていました。

種子の飛散の時期

ヒノキバヤドリギの種子の時期別の飛散個数を示したものが下図です。

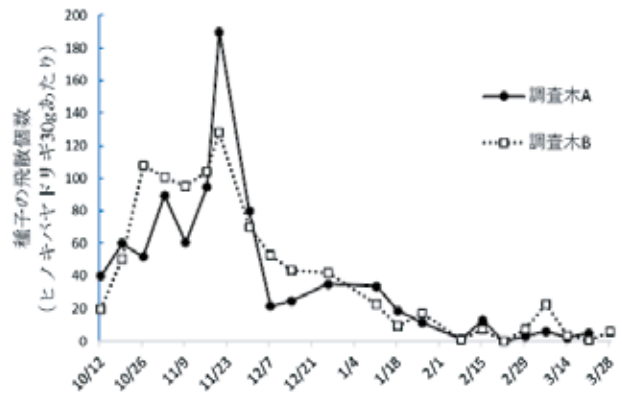


図. ヒノキバヤドリギの種子の飛散個数と時期

種子は10月前半から飛散し、その量は11月中旬から後半にピークを迎えます。

種子飛散によるヒノキバヤドリギの増殖を防ぐためには飛散が始まる10月前半までに駆除を行う必要があります。

駆除の方法

ヒノキバヤドリギの駆除は現在のところツバキの枝条ごと切除する方法しかなく、多大な労力を必要とします。

今後は、薬剤を散布する等の方法で効率的に駆除できる方法を試験することにしていきます。

謝辞

この研究は新上五島町にある五島園芸の今村氏を中心に調査した結果を取りまとめたものです。ここに厚く御礼申し上げます。

(長崎県農林技術開発センター)

紹介コーナー ながさき県民の森 森林館



長崎県民の森 森林館

電話：0959-24-018

住所：長崎市神浦北大中尾町693-2

ながさき県民の森では、来園者が楽しく安心して森を散策できるように、定期的に林内をパトロールし、危険木を処理したり、必要に応じて間伐するなど、森林整備を職員の手で行っています。少なからず危険を伴う作業ですが、必要な講習や訓練を受けた熟練職員により、美しく、安全な森林が保たれています。

そしてその間伐木は、やはり職員の手により、色々な木工品に生まれ変わって、森林館1階ホールで展示販売されています。職員たちの作るそれら作品は、武骨ですが、プロの木工芸作家の作るものとは違った温かみと、お手頃な価格により訪れた家族連れに親しまれています。

お母さんたちが喜ぶまな板、子どもの机にぴったりの動物の鉛筆立て、庭に置くプランターやベンチ、居間に置く火鉢など、工夫を凝らしたオリジナリティーあふれる品々からは、どれも木の香りが立ち昇り、まるで家の中で森林浴の続きを楽しんでいるかのような空間が生まれます。

伊万里木材市況

【ヒノキ】

平成30年7月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	18,000	普通	多い	多い
	16～18	小曲り	16,500	普通	多い	多い
	20～22	直	16,600	普通	多い	多い
	20～22	小曲り	16,000	普通	多い	多い

【スギ】

平成30年7月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	14,700	普通	多い	多い
	18～22	小曲り	11,500	普通	多い	多い
	24～26	直	15,000	普通	多い	多い
	24～26	小曲り	11,500	普通	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

炭焼き技術の伝承 茂平窯 (笹野 孝行さん)



炭焼き職人：笹野孝行さん

炭焼きの愛好者は余多ありますが、これを生業としている方は多くはありません。そんな数少ないプロの炭焼き職人、笹野孝行さんをご紹介します。

長崎市神浦（こうのうら）地区は、現在でも炭焼きの息づいている地域で、神浦川に沿う県道 57 号線は「炭焼き街道」と呼ばれ、冬場には、あちらこちらにある現役の窯が、にがと呼ばれる煙の独特の香りを漂わせています。笹野さんは、昭和 60 年頃、当時勤めていた運送の仕事をやめ、祖父の名を冠した「茂平窯」を主宰、現在は 3 基の窯で年間 30 t を出炭する県内では有数の炭焼き職人です。少し前にテレビで紹介されて以来、「焼いただけ売れる」という状況だといいます。生産が注文に追い付かないときには、近くの炭焼きさんからも仕入れて出荷、県内はおろか、福岡県、山口県まで販路を広げるまでになりました。

とはいえ、笹野さんも今年 69 歳。重労働である炭焼きで、現在の生産量を維持していくのは少々大変になってきたそうです。「規模を 1/3 ぐらいに減らしてやっていこうかと思っている。」とおっしゃいますが、できれば弟子を見つけ、ここまで切り開いてきた道をいずれ引き継いでくれる人が現れてくれるのを願っている様子でした。

笹野さんはこうも話します。「炭焼きだけで食べてゆくのは大変かもしれない。しかし、炭焼きは炭だけではなく、副産物であ

る木灰・木酢・薪も商品としての需要がある。そして、炭焼き技術の一部である、樹木伐倒、搬出技術も身につくので、伐採の仕事などを請け負えば、十分に食べてゆけるものだ。」

取材者も同じような生業をやっていたことがあり、その習性から頭の中でそろばんをはじきながらお話を伺っていました。それを見透かして発せられた笹野さんの言葉は、重みと深みを備えたもので「自分の開拓した販路があれば、やめようとしている炭焼きさんを思いとどまらせることが出来るかもしれない。新たな職人を生み出すことになるかもしれない。それはすなわち炭焼き技術を伝承するということになると思うんだ。さらにそれは、森の整備にもなるのだから、山の為にもなることだと思う。」

利用と管理の一体化という、人と里山の本来あるべき関係を再認識しました。かつて著者が若かったころそうしたように、故郷とそこに伝わる伝統技術を愛するこの炭焼き職人の、門をたたく若者が長崎にも現れないものかなどと思った次第です。

(NPO 法人地域循環研究所)



窯出し中の茂平窯

長崎の林業 8月号 第755号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp